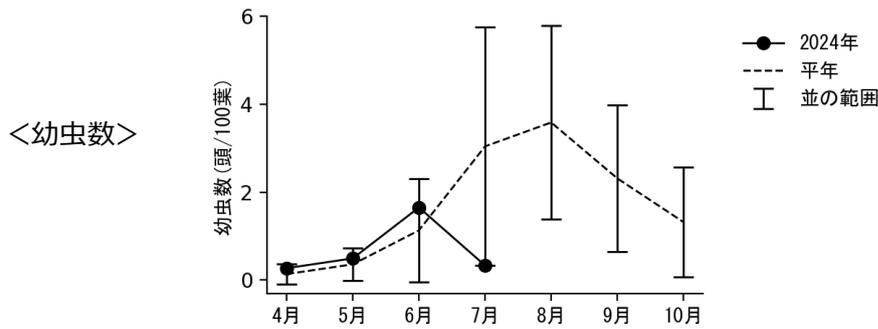
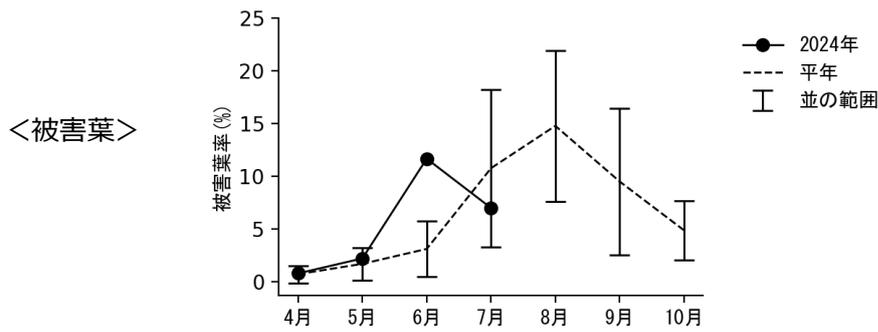


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ (イモコガ)		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率87.5% (平年 : 92.3%)

防除のポイント

・発生初期の防除が有効であるので、被害葉がみられたら薬剤散布する。

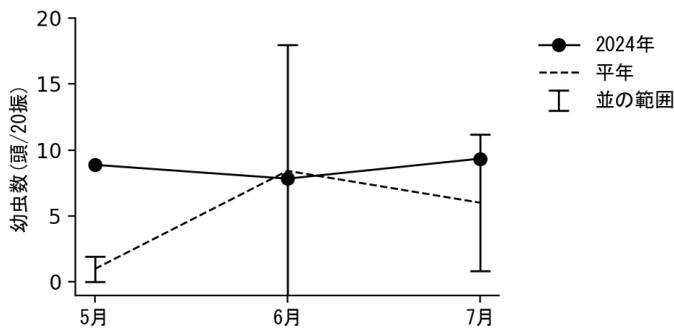


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	バッタ類		
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

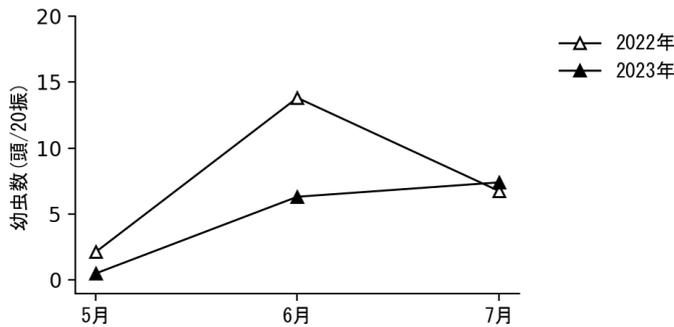
調査結果

幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生ほ場率100%（平年：74.8%）
- ・多発生（南大東島）

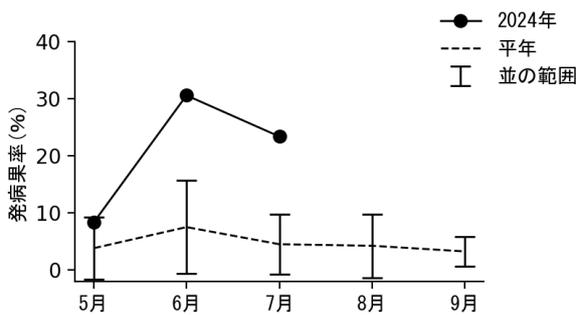
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

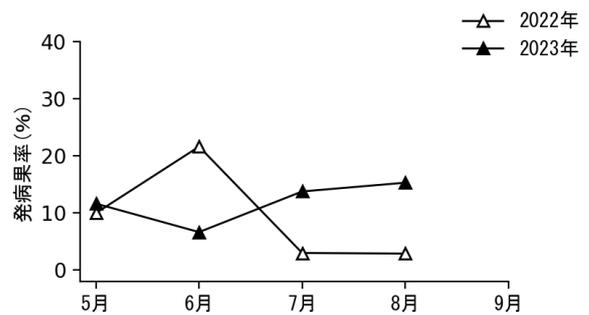
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① そうか病			
調査結果	7月の発生量（平年比）	多		
予報	7月からの増減傾向	→		
	8月の発生量（平年比）	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

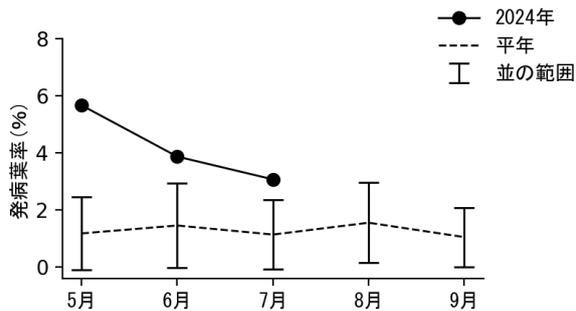
発病果率の推移（今期と平年）



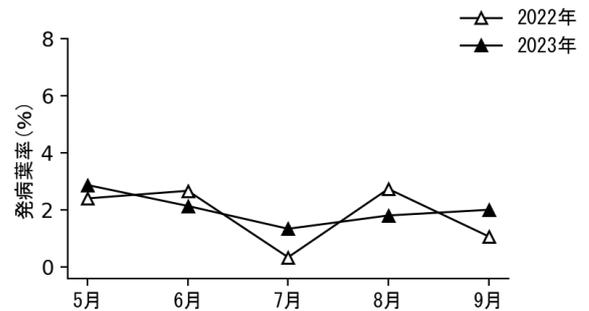
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度4.7（平年1.5）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：45.7%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→

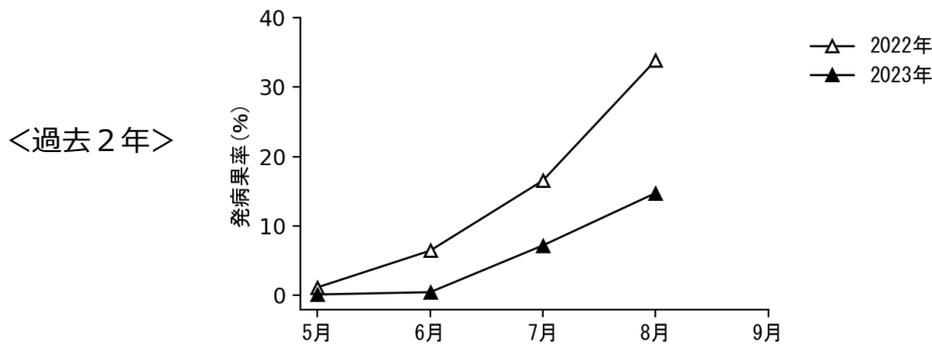
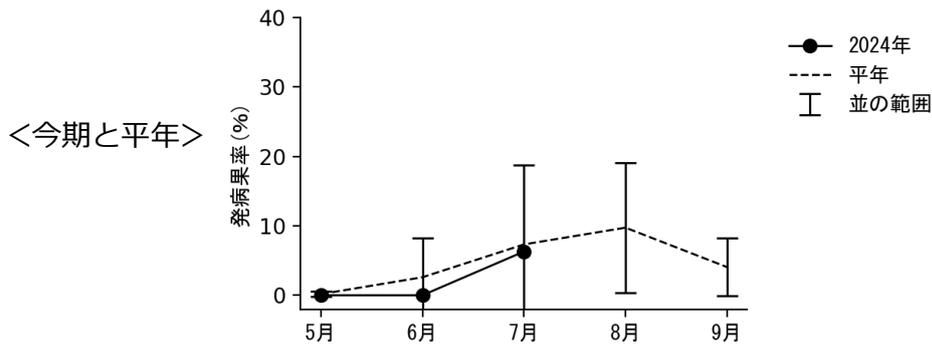


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島	
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	7 月の発生量（平年比）			並
予報	7 月からの増減傾向			↗
	8 月の発生量（平年比）	並		

予報の根拠	平年の発生量の推移（↗）
-------	--------------

調査結果

発病果率の推移



- ・ 果実の発病度1.3（平年2.4）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：47.8%）

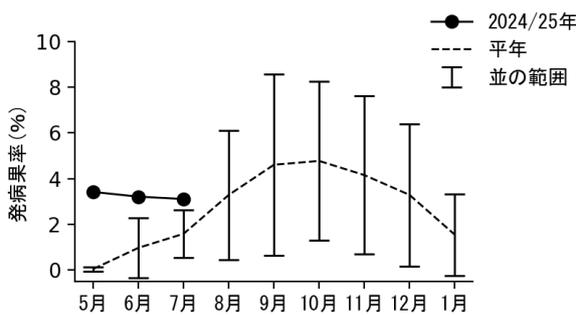
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

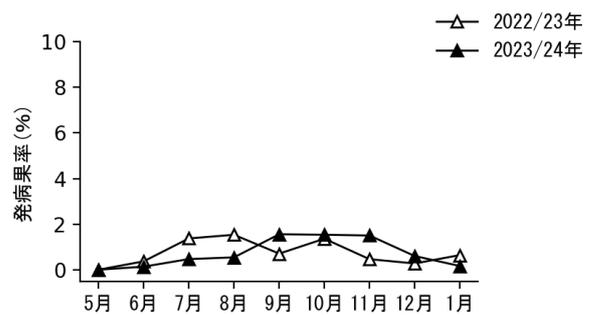
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

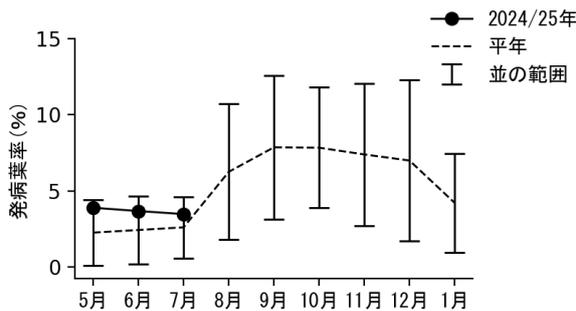
発病果率の推移 (今期と平年)



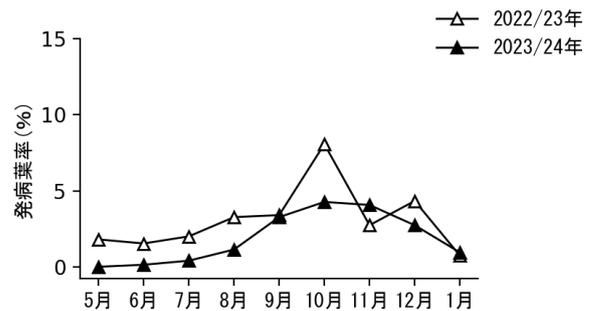
発病果率の推移 (過去 2 年)



発病葉率の推移 (今期と平年)



発病葉率の推移 (過去 2 年)



- ・ 果実の発病度0.6 (平年0.3)
- ・ 発生ほ場率100% (平年 : 66.7%)

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。
- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口 (風傷) は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

被害葉→



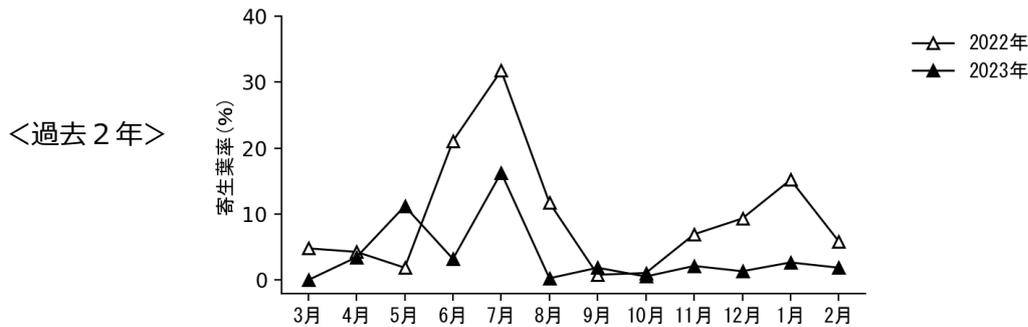
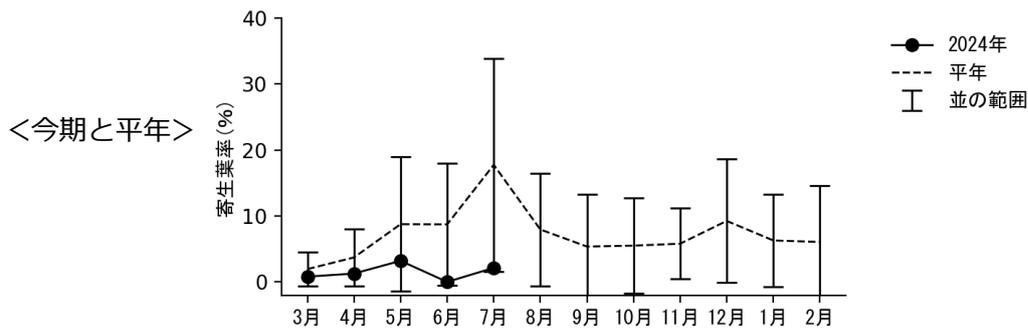
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↘	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	



ミカンハダニ

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：45.8%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

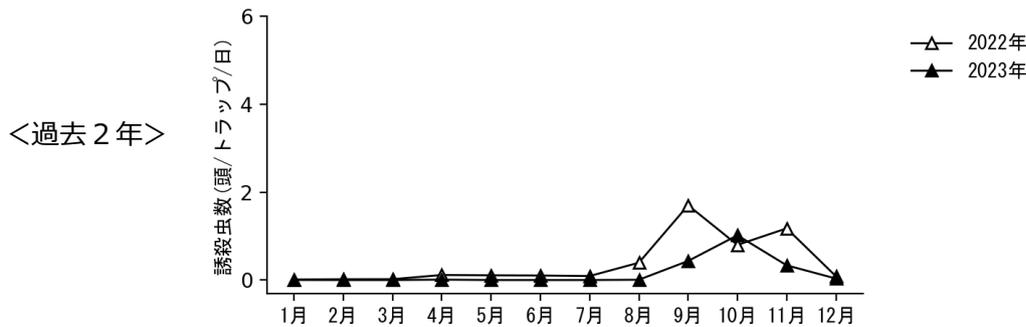
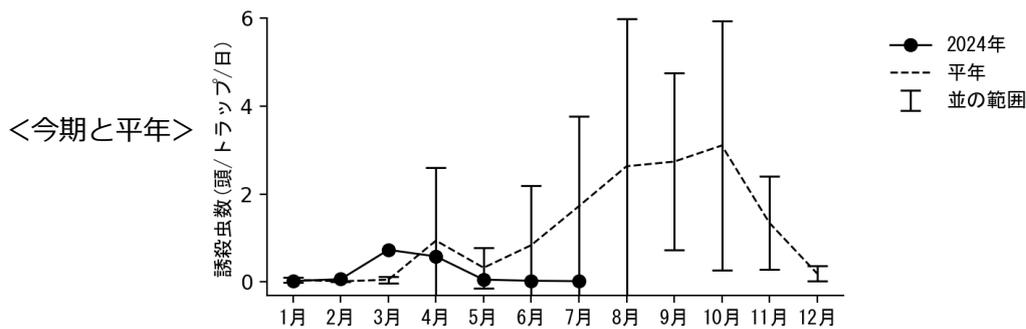


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 76.9%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

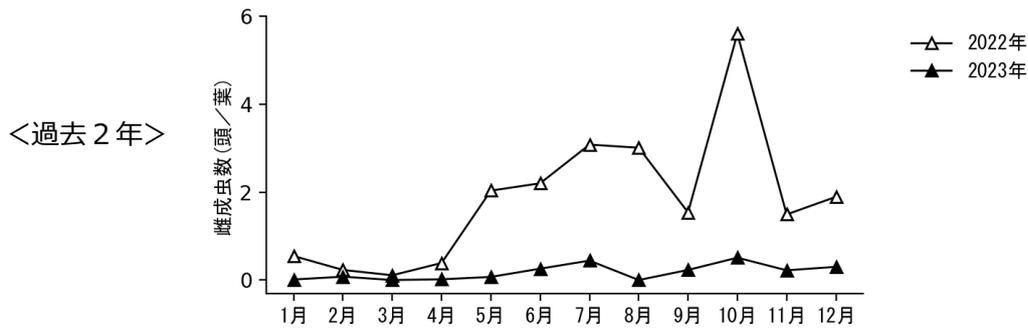
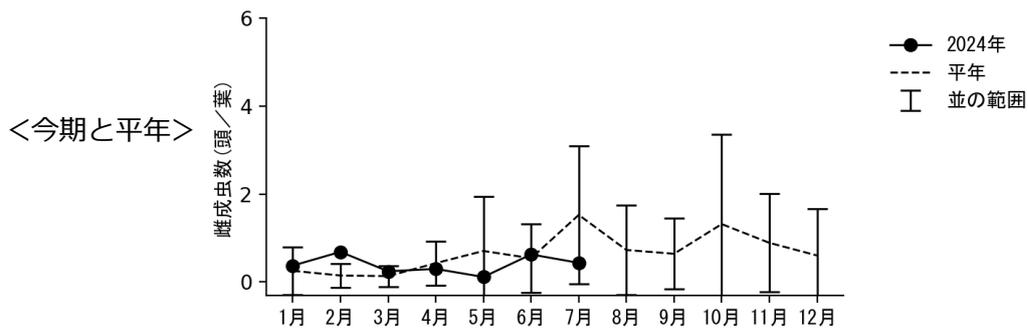


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報	7 月からの増減傾向	↘		
	8 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率71.4% (平年：61.6%)

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

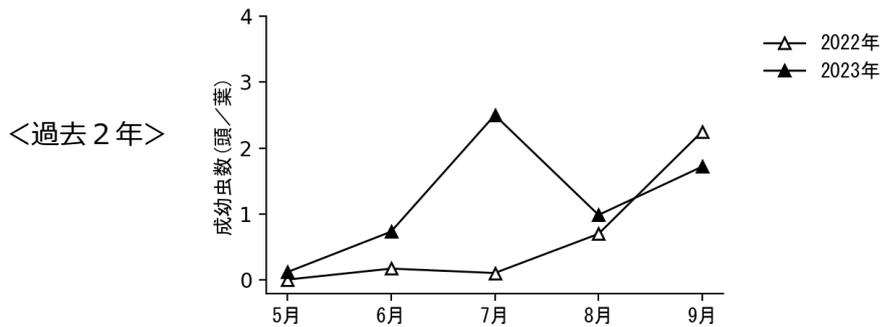
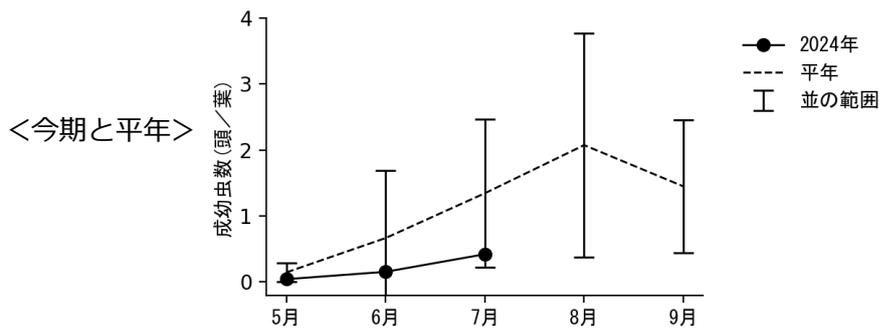


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率40.0% (平年 : 71.1%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

